

由利高原鉄道 鳥海山ろく線

天野松男

秋田に行ってきた。知人が秋田市と由利本荘市の間を仕事で往復しているという。由利本荘市、知らない。それで、秋田に行くついでに由利本荘市にも行ってみようと思っていた。地図で由利本荘市を探すと、そこから由利高原鉄道という鉄道が出ていた。どんなところか、何があるのか全く知らなかったが、とにかく高原鉄道の終点まで行ってみようと思った。知らないところに出かけることが旅の最大の魅力だ。羽後本庄市は JR でいえば羽後本荘駅で下りればよい。秋田駅から特急で一駅だ。由利高原鉄道の時刻表は予めネットで入手していた。これ以外は何の予備知識もなかったが、偶然が重なって思わぬいい旅となった。

先ず列車の選択。秋田市内から往復して夕刻までに秋田に戻るには、行きは秋田 9 時 15 分発、羽後本荘 9 時 50 分着の特急いなほ 8 号、帰りは羽後本荘 15 時 31 分発、秋田 16 時 4 分着のいなほ 5 号しかなかった。それでこれに乗った。

次に曜日。行ったのは 9 月 16 日土曜日だった。土日祝日は羽後本荘駅から終点の矢島駅までの往復を買うと 100 円安くかつ乗り降り自由の「楽楽遊遊乗車券」が発行される。この乗車券は葉書になっていて、切手を貼れば手紙も出せる。

乗ったのは羽後本荘 10 時 46 分発、矢島着 11 時 25 分の「まごころ列車」。まごころ列車は一日往復一便だけ。乗った列車がまごころ列車とは知らなかったが、接続の関係でこれになった。後で時刻表を見ると「まごころ列車」と書いてあった。このまごころ列車、秋田おば姿の列車アテンダントが乗っていて、土産物売りながら沿線の観光ガイドをしてくれる。ものを売るよりは観光ガイドが主だった。乗客には無料で写真のようなしおりを配った。もらったのは上のしおりで、下のしおりは後で出てくる「まつ子」さんからもらったものだ。乗り合わせてラッキーであった。



JR 羽後本荘駅と 10 時 46 分発のまごころ列車

おばこ
おばこ KOGEN RAILWAY

ローカル線は地域の宝 No. 4969

鳥海山ろく線

楽楽遊遊乗車券

土日祝日の他、下記の期間もご利用になれます。

4月 28日～5月 6日
8月 12日～8月 18日
12月 29日～1月 3日

土・日・祝
フリー乗車券

撮影者：高木比呂志氏

羽後本荘 葉子 師堂 黒川 曲沢 前沢 久保郷 西保田 吉滝沢 川辺 矢島

鳥海山

鳥海山ろく線

乗車区間：羽後本荘駅～矢島駅 乗り降り自由

ご乗車当日限り有効

1日フリー
小 500円

ご乗車日 平成 29 年 9 月 16 日

発売日 運賃 大人 1,100円

由利高原鉄道株式会社 発行

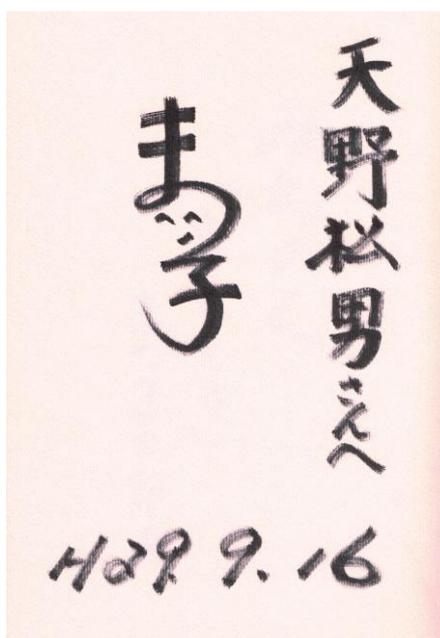


乗車券、しおり、秋田おばこ姿の列車アテンダント

秋田おばこの観光ガイドはよく聞き取れなかった、というかその内容は覚えていないが、終点矢島駅の売店のおばさんはとてもユニークな人で、本も出しているという。本を出していると聞いて、どんな人だろうと興味が湧いた。矢島駅に着くと、四～五人はいたと思うが出迎えの人がいて、その中の一人

に和服を着た女性がいた。後はどんな人がいたのか全く覚えていない。しかし、その時は売店には寄らず、まずは昼飯と思っていたので駅前に出た。一軒の食堂があったのでそこに入って焼肉定食を食べた。結構な量があった。ここの焼肉、駅長のおすすめらしい。もちろん後で知ったことだ。

その後やおら駅に戻り、売店に寄った。そこにはあの和服姿の女性とお客さんらしい人が数人いた。あな



本の表紙とまつ子さんのサイン

たが本を書いた人ですか、と和服姿の女性に尋ねると、そうだという。早速本を買った。私も本が好きだ。「まつ子の部屋」というのは売店のことだ。そこにしばらくいたが、佐藤さんは大変明るい性格の人で、「笑顔が一番、そうでしょ、松男チャン」と初対面でもチャンづけで大きな声で言う。私は自分から余りしゃべる方ではないので、「はい、そうです」と答えるだけだった。そんな性格の人だから売店は大変賑やかだった。



まつ子さんと三浦綾子原作の映画「母—小林多喜二の母の物語」のポスター前でお客と談笑



お客の一人にカメラマンらしい人がいた。私はカメラも好きだ。多分私の方から話しかけたと思う。持っているカメラが私のより格上のようなからだ。プロの写真家かと聞くとそうではないようなことを言っていたが、それでも東京で個展を開いたというから、それなりの人だ。その人は前ページに示した遊遊楽乗車券の写真を撮った人で、高木比呂志さんという人だった。

高木比呂志さん、まつ子の部屋の前で

しばらくまつ子の部屋でおしゃべりした後町の散策に出た。まつ子さんにどう散策したらいいか聞いて、その通りに歩いた。



由利高原鉄道矢島駅



由利本荘市役所矢島総合支所



龍源寺



八森城址

八森城址の立て看板には「矢島町指定文化財（史跡） 八森城址 由利十二頭の雄大井義久は、応仁元年（一四六七）信州大井之庄（佐久市）から下って矢島の領主となり、ここ八森の台を見立てて居城とした。・・・」とある。散策マップには「大井家」もあったが、殿様の末裔の家だったのだ。まつ子さんの標準コースは、立て看板など細かに読まずに写真だけ撮って 40-50 分であった。またまつ子の部屋に戻りしばらく談笑。



13時54分発の列車で帰ったが、その帰りがまた派手であった。来た時は出迎えがあるとは思わなかったので写真は撮っていない。帰る時も見送りがあるとは思わなかったのでホーム側ではない座席に座って列車の出発を待っていた。列車が出る直前、ホーム側に座っていた乗客の一人が「矢野さん？」と発したが自分のこととは思わなかった。列車が動き出した直後駅舎の写真撮ろうと思ってデッキに立つとそこにまつ子さん。すんでの所で見送りに間に合った。それが左上の写真だ。まつ子さんに続いてなんと沢山の人が小旗を振り、横断幕を掲げての見送り。今まであちこちを旅したが、こんな感じで見送られたのは初めてだ。しかも、まつ子さんのようなユニークな人との出会いも初めてだ。いい旅であった。

なお、Wikipedia によると「矢島町（やしままち） 1889年（明治22年）4月1日 - 町制を施行する。 2005年（平成17年）3月22日 - 周辺市町と合併して由利本荘市となり消滅、合併後も由利本荘市矢島町として地名が残っている」とある。

以下、由利高原鉄道鳥海山ろく線の沿線の写真を示す。





まつ子さんの御著「みちのく『小さなえき』まつ子の部屋」は北九州へ帰る新幹線の中で読んだ。この本はまつ子さんのこれまでの人生とブログを綴ったものだが、前半の若かりし頃の話しはつい涙せずにはいられなかった。でも、持ち前の精神的バイタリティーでそれを乗り切る。是非一読を勧めたい。

まつ子さんはテレビの取材も多いらしく、テレビ見てきたのかと聞かれた。私は何の予備知識もなくただ鉄道に乗りただけで偶然矢島町に行ったのだが、今までの旅の中でこんな出会いをしたことがない。

本の購入もさることながら、「鳥海山ろく線」に乗ってまつ子さんに会いに行くのもお薦めだ。

「みちのく『小さなえき』まつ子の部屋」 定価 1300 円（本体価格 1,204 円）

「まつ子の部屋」

〒015-0404 秋田県由利本荘市矢島町七日町字羽坂 21-2

由利高原鉄道 矢島駅構内

電話 0184-55-4500